#59
P. O. F. I. LIBRARY
JUL 20 1959
FISH & WILDLIFE SERVICE
operations for July 1958
#59

鮪漁業 第五十九号 昭和三十四年六月十日発行 （毎月一回十日発行）
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可

鮪漁業

TUNA FISHING

——鮪漁船のお見送り（三崎）——

鮪漁業研究会

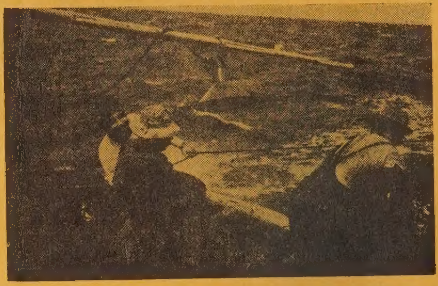
THE INVESTIGATIVE SOCIETY OF TUNA FISHERY JAPAN

No. 59, 1959

June, 1959

倉敷ビニロン　クレモナ　万漁

鮪延縄◆ロープ◆漁網



くさらない
使いやすい
値も安い

倉敷レイヨン株式会社

本　　社　大阪市北区梅田2（第一生命ビル）
東京事務所　東京都中央区日本橋室町　2の4

営　業　種　目

船舶・陸上

冷凍・冷蔵・製氷・冷房

冷凍・冷蔵・製氷工場
急速・空気凍結装置
冷房装置・冷凍機械器具
防熱装置・船舶冷凍冷蔵
設計　製作　施工

協同低温工業株式会社

本　社　東京都千代田区神田佐久間町河岸58　（夏目ビル2階）
電　話　下　谷　（83）　0996番

── 目　次 ──

鮪漁船紹介　　永 隆 丸　　第36 黒潮丸

鮪漁場図（昭和33年７月操業）

1958年７月に於ける鮪漁場の漁況と海況（依託調査船51隻の資料に依る）
Fishing and Sea Conditon of Tuna Fishing Grounds in July 1958
(By the data collected from the 51 appointed boats)……………… 1

1. 調 査 の 概 要 ……………… 1

2. 漁 況 の 概 要 ……………… 1

3. 各海区の漁況と海況 ……………… 2

A．赤道以北140°W以東の漁場……… 2
B．赤道以南140°W以東の漁場……… 2
C．赤道以北 180～140°W の漁場…… 3
D．赤道以南 180～140°W の漁場…… 4
E．旧南洋庁沿海漁場………………… 4
F．ソロモン以南漁場………………… 5
G．東部印度洋漁場…………………… 6
H．中西部印度洋漁場………………… 6
I．大西洋漁場………………………… 7

月別．漁場別．鮪類漁獲調査表（1958年７月操業分）別表１ ……………… 9

月別．漁場別．鮪類体長組成表（1958年７月操業分）別表２ ………………11

マグロ漁況概況予報（昭和34年７月）……………神奈川県水試遠洋資源係……14

鮪類標識放流について ………………16

アルキペラゴ諸島付近のクロカワについて ………………和歌山水試　榎 田　昭 一……17

マグロ研究報告の紹介 No. 2………………会 員　中 込　淳……19

新漁具紹介 ＳＫスリーブ及びプレッサー………………20

業 界 メ モ （1959年5月～6月）………………21

鮪類水揚価格表（三崎）昭和34年3月, 4月, 5月 ……………… 8

本会の図書誌の分譲其の他について ………………22

―表紙写真　三崎無線通信士協会写真部提供―

営　業　品　目

商船用・漁船用並びに陸上用無線通信装置の製造

装　備・補 修 一 式

七 洋 電 機 株 式 会 社

本　社　東京都目黒区中目黒4丁目1315番地

電話荏原（712）2525・2526・3314番

永　　　隆　　　丸

船　　主	報国水産株式会社
造船所	株式会社　金指造船所
主要寸法	長65.82m×幅11.50m×深5.30m
総屯数	1,283.93屯
魚艙容積	1,525.57m³
燃料油艙	480.91m³
速　　力	最大　14.14節
主　　機	デーゼル1,800IP 過給機付(新潟鉄工) 1基
補　　機	デーゼル 300IP 過給機付(　〃　) 2基 165IP (　〃　) 1基
無　　線	500W, 250W, 75W (日本無線) 各1基
冷凍装置	日新興業設計施工　MB-6C-N　1基 アンモニヤ直膨式　MB-4C-N　2基
レーダー(安立), 方探(光電), 音測, G.C.P.(東京計器) 其の他	各1式
搭載艇	キャッチャーボート, ライフボート各1隻
竣　　工	昭和34年4月20日

漁船の冷凍装置に定評ある

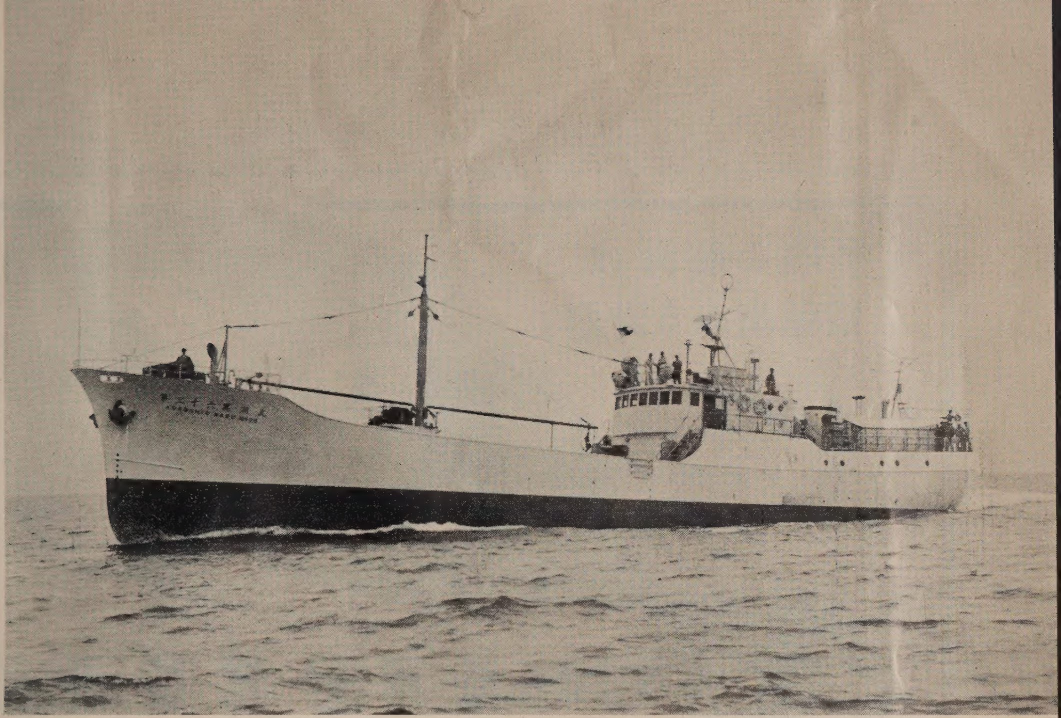
日新興業株

本　　社　大阪市北区中之島3の3　(朝日ビル)
東京支店　東京都中央区銀座西6の3 (朝日ビル)
清水出張所　清水市三保本村四区
三崎サービスステーション 三浦市三崎町西野34金指

各種鋼製漁船の建造並に修理

株式会社　金指造船所

本社工場　清水市三保4010—19　電話　清水(2) 4111～5
塚間工場　清水市三保弁天492　電話　清水(2) 5151～2
東京事務所　東京都港区芝田村町3ノ4　電話　芝(59)1306～8
三崎出張所　三浦市三崎町西野34　電話 (三浦) 2851



第 36 黒 潮 丸

船 主	日魯漁業株式会社
造船所	株式会社 三保造船所
主要寸法	長43.35m×幅7.50m×深3.75m
総屯数	337.84屯
魚艙容積	327.05m³
燃料油艙	202.53m³
速 力	最大 12.80節
主 機	デーゼル750HP（赤阪鉄工） 1基
補 機	デーゼル120HP（ヤンマー） 2基
無 線	250W，75W（日本無線） 各1基
冷凍装置	アンモニヤ直膨式 75HP 2基

レーダー（日無），方探（光電），音測（産研）
M.C.P.（東計），ヘルショウ舵取器（川崎重工）
其の他 各1式

竣 工	昭和34年4月25日

式会社

. 北浜（23）9736—7（直通）
表(23)9531(朝日ビル交換台)
. 銀座（57）6804.6810.6811
. 清水（2） 3507
所三崎出張所内TEL.三浦851

施工船名

永隆丸
第11福長丸
第3加喜丸
第2清勝丸
みやざき丸
（其の他約六百隻）

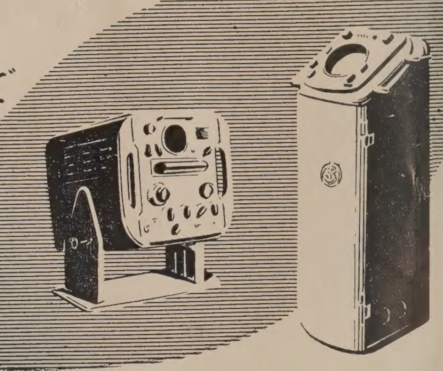
鋼製漁船・貨物船・建造並びに修理

株式会社 三保造船所

本 社 静岡県清水市三保3797 電話清水(2)代表2201番
東京事務所 東京都中央区八重洲3の7東京建物ビル705 電話 千代田(27) 5522. 6775. 9761番

能率的な航海は
信頼出來る計器で

スペリー式
マリン・レーダー
マリン・ロラン

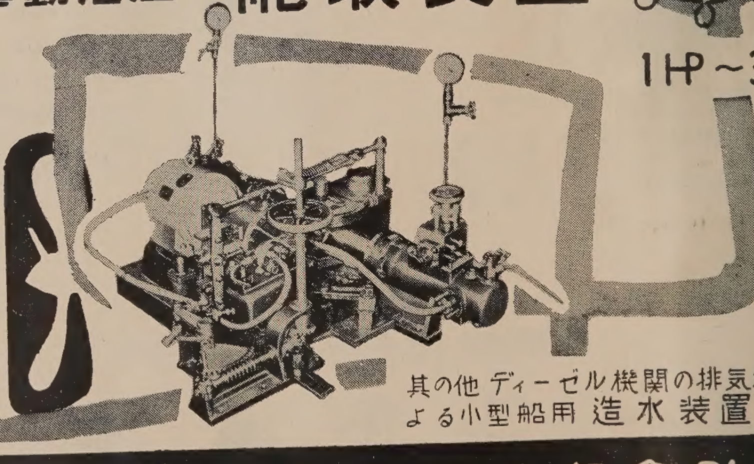


株式会社東京計器製造所

本社工場　東京都大田区東蒲田4の31　電話 (73) 2211~9
出張所及びサービス ステーション　神戸・函館・長崎・横浜　名古屋・下関

川崎ヘルショウ式
電動油圧　舵取装置

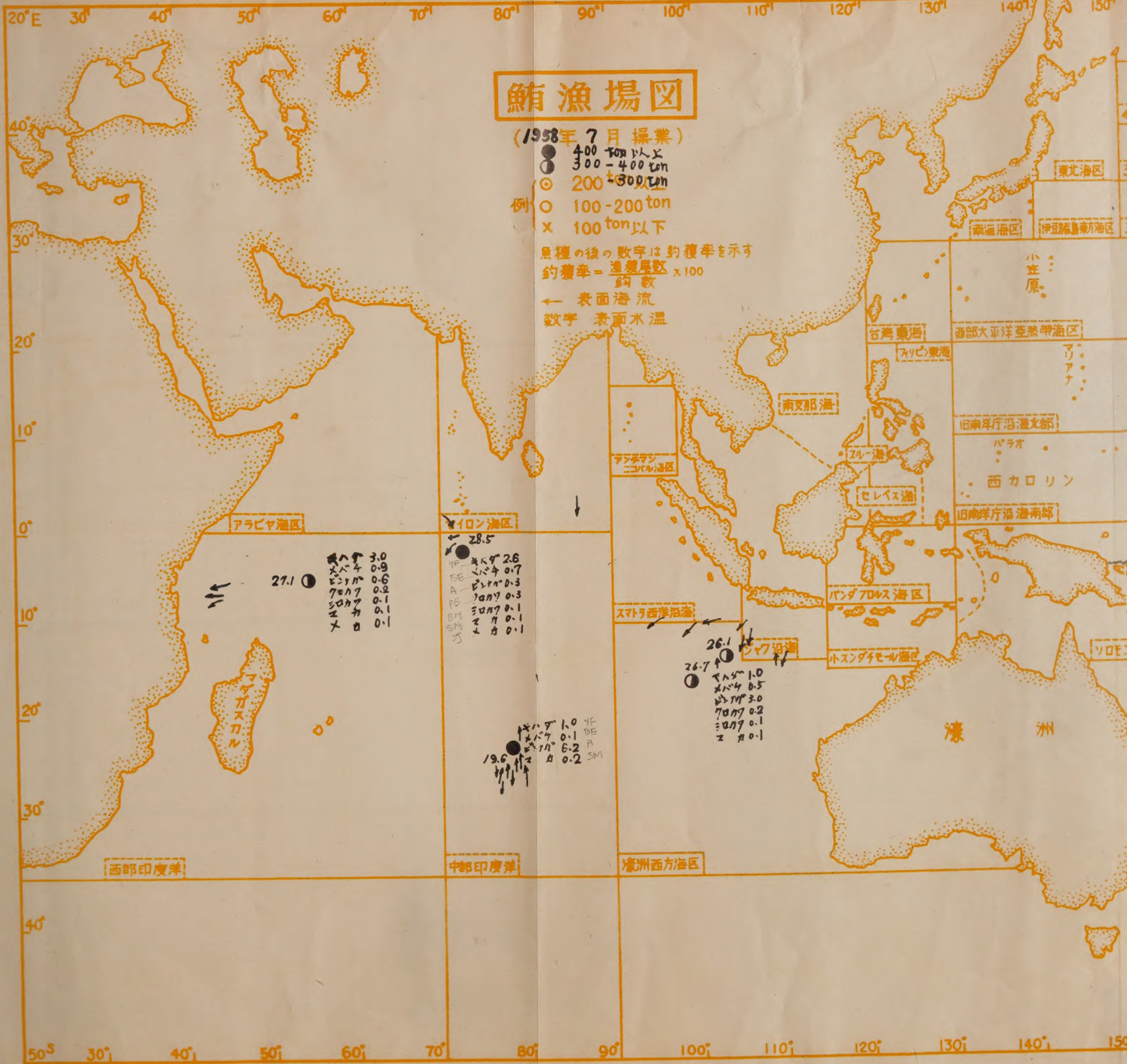
1HP~3HP



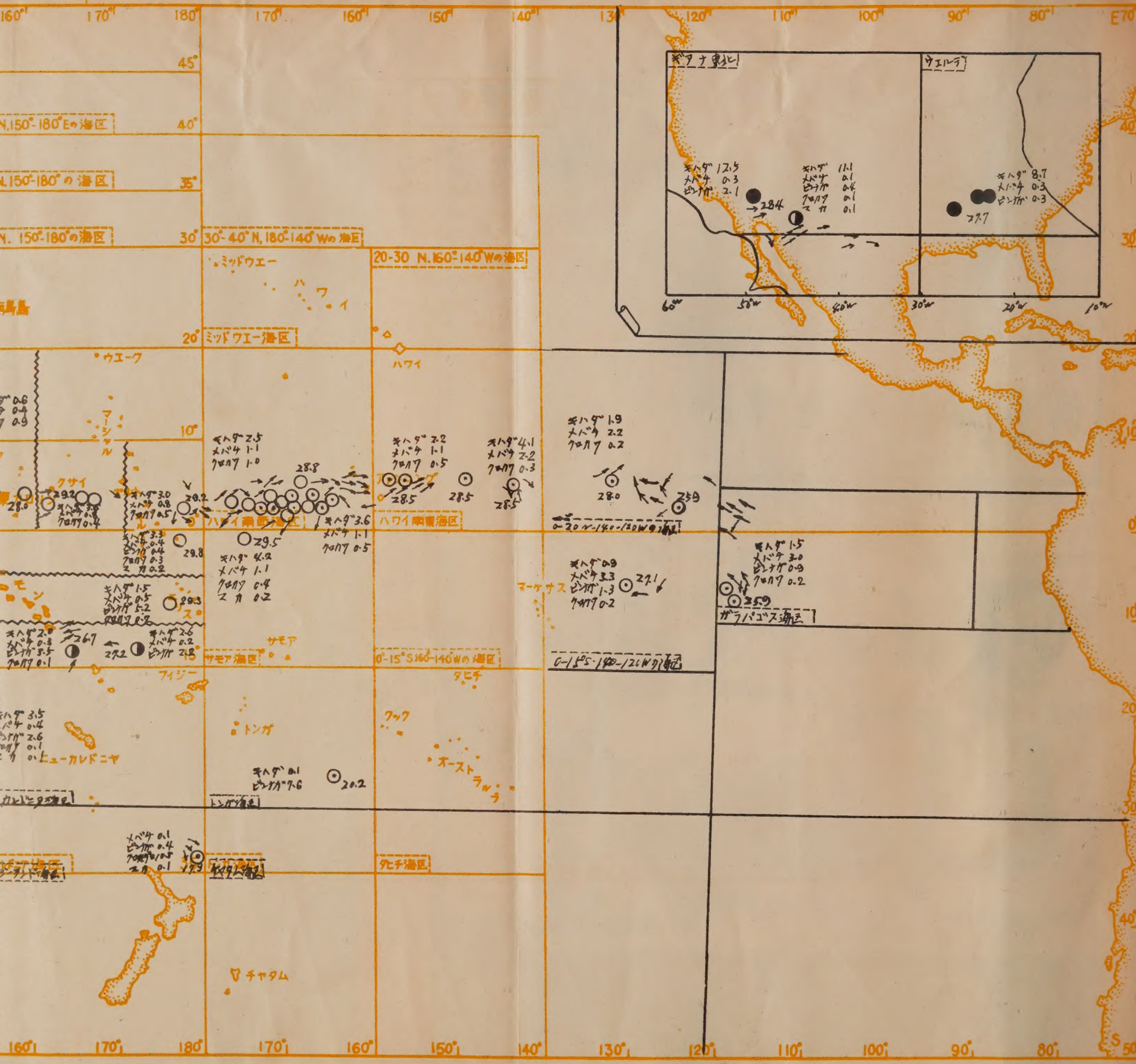
其の他ディーゼル機関の排気利用による小型船用造水装置

川崎重工業株式會社

神戸市生田区東川崎町二丁目一四 (電) 湊川(5) 7531
東京支店　東京都港区芝田村町一丁目(日比谷ビル)(電) (59) 6101
(本紙名記入の上御一報下さればカタログ御送附致します)



鮪漁場図
(1958年 7 月 操業)
例
400 ton 以上
300 - 400 ton
200 - 300 ton
100 - 200 ton
100 ton 以下
魚種の後の数字は釣獲率を示す
釣獲率 = 漁獲尾数 / 鈎数 x 100
← 表面海流
数字 表面水温
アラビヤ海区
セイロン海区
西部印度洋
中部印度洋
濠洲西方海区
アンダマン ニコバル海区
スマトラ西洋沿海
ジャワ沿海
南支那海
スルー海
セレベス海
バンダ フロルス 海区
小スンダ チモール海区
台湾東海
フィリピン東海
西部太平洋亜熱帯海区
旧南洋庁沿海北部
旧南洋庁沿海南部
東北海区
南海海区
伊豆諸島東方海区
小笠原
マリアナ
パラオ
西カロリン
ソロモン
マダガスカル
濠洲
27.1
キハダ 3.0
メバチ 0.9
ビンナガ 0.6
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マカ 0.1
メカ 0.1
28.5
YF — キハダ 2.6
BE — メバチ 0.7
A — ビンナガ 0.3
PB — クロカワ 0.3
BM — シロカワ 0.1
SM — マカ 0.1
SJ — メカ 0.1
19.6
キハダ 1.0 YF
メバチ 0.1 BE
ビンナガ 6.2 A
マカ 0.2 SM
26.1
26.7
キハダ 1.0
メバチ 0.5
ビンナガ 3.0
クロカワ 0.2
シロカワ 0.1
マカ 0.1
20°E 30° 40° 50° 60° 70° 80° 90° 100° 110° 120° 130° 140° 150°
40° 30° 20° 10° 0° 10° 20° 30° 40° 50°S



N.150°-180°Eの海区
N.150°-180°の海区
N. 150°-180°の海区
30°-40°N, 180°-140°Wの海区
20-30 N.160°-140°Wの海区
ミッドウエー
ハワイ
ミッドウエー海区
ウエーク
マーシャル
クサイ
ハワイ南西海区
ハワイ南東海区
マーケサス
ガラパゴス海区
サモア
サモア海区
0°-15°S160-140Wの海区
タヒチ
フィジー
トンガ
クック
オーストラル
ニューカレドニヤ
タヒチ海区
チャタム

1958年・7月に於ける鮪漁場の漁況と海況

(依託調査船51隻の資料に依る)

Fishing and Sea Condition of Tuna Fishing Grounds in July 1958

(By the data collected from the 51 appointed boats)

1 調査の概要

1958年7月においては、調査隻数は6月よりさらに減少して總数51,そのうち三崎48東京3で、燒津における調査船はなく、体長測定船数は22,調査海区数は19であつた。

2 漁況の概要

(キ　ハ　ダ)

0—20°N, 140—120°Wの海区では好漁、ガラパゴス海区は好漁前期、0—15°S, 140—120°Wの海区は低率、ハワイ南東海区5°N以北は好漁期、ハワイ南西海区は5°N以北以南とも好漁期、サモア海区北部も盛漁期にあつて極めて高率、トンガ海区南東部は低率、南洋北部150—160°Eの海域も低く、南部150°E以東の諸海域およびソロモン海区北東部は高く、ソロモン海区5°以南はやや好漁であつた。ニューカレドニア海区中西部は好漁、濠洲西方海区北部はやや好漁の程度であつた。

中部印度洋北西部および西部印度洋北部は同様にやや好漁、中部印度洋海区中部の南寄り海域は、この海域としては低率である。ヴエルデ海区南部およびギアナ東北海区南部は高率であつた。

(メ　バ　チ)

0—20°N, 140—120°Wの海区、ガラパゴス南西部、0—15°S, 140—120°Wの海区ではいづれも好漁、ハワイ南東5°N以北は好漁で盛漁期前、南西海区では5°N以南でこの海区としては好漁が続いている。サモア海区のメバチは北部で好漁、トンガでは低率南洋北部150—160°Eは低く、南部150°E以東の諸海域は一般に低率、ソロモン以南の各海区はいづれも低い。濠洲西方海区は北部でやや好漁、中部印度洋海区は不漁で、北部の赤道附近が比較的高率である。西部印度洋北部では3月からおおむね好漁が続いている。ヴエルデおよびギアナ東北の両海区では、依然として不漁で好漁は望めない。

(ビ　ン　ナ　ガ)

ガラパゴスおよび0—15°S, 140—120°Wの海区では、これらの海区としては好漁が

★従來、トンガ海区とチヤタム海区の境界線は35°Sであつたが、これを30°Sにあらためる。タヒチ海区の南部境界線についても同様とする。

得られ、サモア海区北部では漁獲なく、トンガ海区は盛漁期、ソロモン海区は5°S以南で好漁となつている。ニューカレドニア海区では、濠洲東海岸近海中部でやや高率盛漁期であるが、ニュージーランド北東方ではまだ低率である。濠洲西方海区北部は盛漁、中部印度洋海区では中部南よりで高率、西部印度洋海区北部は不漁となつている。大西洋漁場では、ヴエルデ海区は低く、ギアナ東北海区で僅か上昇している。

(ク　ロ　カ　ワ)

0—20°N, 140—120°Wの海区、ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区は、いづれも低率期であり、ハワイ南東海区5°N以北は好漁期前、南西海区5°N以北および5°N以南は盛漁期となり、南洋北部150—160°Eの海域は高く、南洋南部150°E以東の3海域では170°E—180°の海域が好漁となつている。中部印度洋海区は、赤道附近でやや高く、西部印度洋海区北部も低率である。大西洋漁場では、ヴエルデ、ギアナ東北の両海区とも不漁である。

(マ　カ　ジ　キ)

サモア海区では、北部でやや漁獲がみられ、ニューカレドニア海区においては好漁となりつつあり、中部印度洋海区中部南よりの海域では好漁であつた。

3　各海区の漁況と海況

A. 赤道以北140°W以東の漁場

(0—20°N, 140—120°Wの海区)

この漁場における調査海区は、0—20°N, 140—120°Wの海区のみで、同海区の5°N線北側、133°W附近と、5°N線南側、125°W附近でそれぞれ1隻、計2隻を調査した海流は、西方の海区に比して錯雑しているが、5°N以南ではおおむね西流、5°N以北では東流している模様である。

(キ　ハ　ダ)

0—20°N, 140—120°Wの海区のキハダは、春季から次第に上昇して盛漁期にあり、昨年の同時期ほどの高率は得られないが、1.92を示して好漁である。

この海区のキハダは大型で、151—160cmにモードがみられ、48.4%を占めている。

(メ　バ　チ)

この海区は、メバチも好漁であり、6°N, 133°W附近が、その南東方海域より高く3.50の高率である。

体長組成は、おおむねガラパゴスと変らず、151—160cmにモードがあつてやや小型である。

(ク　ロ　カ　ワ)

この附近のクロカワは低率であり、春季より減少して海区平均釣獲率は0.17と低率6°N, 133°Wの1隻が0.21を示して、メバチと同様に、その南東方海域より比較的高いクロカワの体長測定尾数は極めて少数であつた。

B. 赤道以南140°W以東の漁場

(ガラパゴス海区、0—15°S, 140—120°Wの海区)

ガラパゴス海区においては、海区南西部で2隻、0—15°S, 140—120°Wの海区では海区中央部やや北寄りの1隻、計3隻を調査した。

（キ　ハ　ダ）

ガラパゴス海区のキハダは、6月より西方の漁場でやや好漁が得られているが、この海域は低率期にあるものと思はれ、今后は釣獲率の増加が見込まれる。0—15°S, 140—120°Wの海区では、好漁期を終つて低率0.90となつている。

ガラパゴス海区のキハダは大型であるが、6月よりもやや小型のものが多く漁獲されている。

（メ　バ　チ）

ガラパゴス海区中部海域では、3,4月以来高率が続いていたが、7月に入つては、海区南西部でやや低下して3.02を示している。8月には、この附近海域ではさらに低減しよう。0—15°S, 140—120°Wの海区中部北寄りの海域は、5月から上昇しつつあり、7月は3.29と極めて高率である。

両海区における体長調査尾数は少数であつたが、ガラパゴス海区では150—160cmにモードがあつて、大型ではあるが5月よりやや小さく、0—15°S, 140—120°Wの海区では、モードが131—140cmによつり、小型となつている。

（ビ　ン　ナ　ガ）

ガラパゴス海区および0—15°S, 140—120°Wの海区とも増加がみられ、前者は0.92後者は1.33と西よりに高い。

（クロカワ、マカジキ）

これら2海区のクロカワは、低率期に入つてみるべき漁獲はなく、マカジキは、6月にはガラパゴス海区南部中央でやや高率であつたが、7月は低調である。

ガラパゴス海区のクロカワは、測定調査尾数が少いが大型であり、0—15°S, 140—120°Wの海区においては、171—200cm程度のものが多いようである。

C．赤道以北180—140°Wの漁場

（ハワイ南東海区5°N以北、ハワイ南西海区5°以北および以南）

この漁場における7月の調査船は、ことごとく5N°線附近に集中し、総数22隻であり、ハワイ南東海区5°N以北では、5°N線北側、140—160°Wにて4隻、ハワイ南西海区5°N以北では、5°N, 170°W附近で1隻、同海区5°N以南の海域では、5°N線南側の中部を中心に17隻が操業している。

（キ　ハ　ダ）

ハワイ南東海区5°N以北の5°N線附近では、東側4.06, 西側2.18と東側が高く、南西海区5°N以北および以南もそれぞれ高率で好漁期にある。南西海区5°N以北は盛漁期、5°N以南は好漁後期にうつりつつある模様である。

ハワイ南東海区5°N以北のキハダの魚体は大型となり、141—160cmのものが半数を越え、南西海区5°N以南では、111—120cmにモードがあつて従来よりやや小型である。

（メ　バ　チ）

ハワイ南東海区5°N以北のメバチは好漁、キハダと同傾向を示して東よりに高く、南西海区5°N以北の海域は、5°N線北側で5°N以南とほとんど同率でこの海域としては低率、5°N以南の海域では、4月からの好漁がやや低下して1.07となり、低減過程に入るようである。

体長組成は、南東海区5°N以北の海域では、111—120cmと131—140cmとにモードがみられ、南西海区5°N以南におけるモードは、111—120cmおよび141—150cmにあるが、おおむね從來と同様である。

（ク　ロ　カ　ワ）

ハワイ南東海区5°N以北の海域5—6°Nでは、西よりに高率で160°W附近は0.48，南西海区5°N以北の1隻は0.99と特に高く、5°N以南では0.45，いづれも好漁期にある。

体長組成をみると、南東海区5°N以北では、161—170cmのものが多く、從來と変らない。南西海区5°N以南の海域でも、モードは5°N以北と変らず同様の傾向である

D．赤道以南180—140°Wの漁場

（サモア海区、トンガ海区）

7月のこの漁場における調査船は2隻、サモア海区北部の1隻は、175°Wの赤道附近、トンガ海区の1隻は、海区南東部のヘイメット島西北西方で操業している。

（キ　ハ　ダ）

サモア海区北西部のキハダは6月に続いて極めて高率、7月は4.23と盛漁期であるトンガ海区南東部は0.14で低率を示している。

（メ　バ　チ）

サモア海区北西部では盛漁期、トンガ海区南東部では不漁であつて0.04と低い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

トンガ海区南東部のビンナガは極めて好漁であり、7.63の高率で、昨年と同傾向である。8月には減少するであらう。サモア海区北部においては、4月から6月まで釣獲率の漸増があつたが、7月には全く漁獲されていない。

（クロカワ、マカジキ）

クロカワは、サモア海区北西部で6月よりやや増加がみられ、0.40を示して、ハワイ南西海区5°N以南とほぼ同率である。この海域における7月のマカジキは、0.15で好漁であつた。

E．旧南洋庁沿海漁場

（南洋北部170°E以西、南洋南部170°E以西、南洋南部170°以東）

南洋北部においては、15°N，152°E附近の1隻が調査され、南洋南部では、150°E以東の5°N以南の海域で5隻を調査した。この漁場の調査船総数は6隻に過ぎず、減少がいちじるしい。

（キ　ハ　ダ）

北部150—160°Eのキハダは低いが、6月0.11よりは増加して0.62を示し、5月とほぼ

同様である。南部150—160°Eでは、カロリン諸島のヌクオロ島東方において3.54の高率、同じく南部160—170°Eのクサイ島、ナモリック島南方でも3.59, 170E—180°のマキン島、ギルバート諸島北部周辺ではやや低く2.96を示し、いづれも好漁である。

南部以西の150—160°Eでは、101—110cm, 160—170°Eでは121—130cmにモードがあり、南部以東は111—120cmにモードがみられて比較的小型のものが増加している。

（メ　バ　チ）

南洋北部150—160°E西部では、6月より半減して0.38, 南部諸海域5°N以南は0.8—1.0程度の率で、この海域としては低い。　（漁場圖參照）

南洋南部の150—160°Eの海域では111—120cm, 160—170°Eでは、121—130cmにモードがあり、比較的小型である。

（ク　ロ　カ　ワ）

北部150—160°Eの海域のクロカワは、5月以来好漁が続いて7月も0.85と好漁、南部150—160°Eは、160—170Eと同率0.38, 170E以東はやや高く0.51で好漁期にある。体長組成をみると、南部160—170°Eの海域では、141—170cmのものが67.3%を占め南部170°E以東では151—160cmにモードがあつて従来とおおむね同傾向である。

F. ソロモン以南漁場

（ソロモン海区、ニユーカレドニア海区、ニユージーランド海区）

ソロモン以南漁場における調査船も減少がめだち、ソロモン海区0—5°Sのギルバート諸島南部近海および5—10°Sのエリス諸島西方でそれぞれ1隻で10—15°Sではスピリッサント島の北東方と北西方で各1隻、ニユーカレドニア海区においては濠洲東海岸沖で1隻、さらにニユージーランド海区では、ノース•アイランド北方における1隻、總計6隻であつた。ニユージーランド北東部では、天候、海況が極めて惡く、風力5—6の日が続き、操業は困難であつた。この海域では、東—南東方向えの海流が多く観測されているが、流向、流速は不規則なことが多く、海流の錯雑した海域でマグロが多く漁獲されている。（第2孝勇丸船長高橋卓光氏報告）

（キ　ハ　ダ）

ソロモン海区0—5°Sの海域では、夏の低率期に向つて5月の高率から低減しつつあるようで、7月のギルバート諸島南部附近は、3.28でこの海域としてはやや低率である。8月には更に低率となるであろう。5—10°S東部海域は1.52と低く、10—16°Sの2隻も、平均釣獲率2.12で好漁は得られず低下中である。ニユーカレドニア海区西部では、3.54と好漁で31, 32年と同傾向、ニユージーランド海区北東部では全く漁獲がない。

（メ　バ　チ）

ソロモン海区の0—5°Sのメバチは、6月に好漁を示したが、7月の海域北東部では、0.43と6月より半減し、5—10°S東部では0.45で、この海域としては好漁であつた。10—15°Sは低く、ニユーカレドニア海区西部でも低率、ニユージーランド海区北東部は極めて低い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

0—5°Sのビンナガは不漁期に入り、海域北東部は低率、5—10°Sは盛漁期にあつて5.22の高率であり、10—15°Sでは、中～東部の海域で3.29を示し、29年夏以来の好漁となつている。

ニユーカレドニア海区では、好漁期に当つていて西部の濠洲東海岸沖で釣獲率2.64が得られているが、從来の夏季の高率に比較すれば非常に低い。8月には、増加して好漁を示すであろう。

ニユージーランド海区北東部では低率、秋には増加を始めるであろう。このビンナガは非常に小さく、体重7-8kg程度のものであつた。（第2孝勇丸船長 高橋卓光氏報告）

（イ ン ド マ グ ロ）

インドマグロは、ニユージーランド海区北東部で夏季の好漁期にあたり、10.81の高率である。冬に向つて漸次低減するであろう。第2孝勇丸高橋船長の報告によれば、この海域のインドマグロは、小さな潮目には必ず群棲し、生殖巣は未熟であつた。

（クロカワ、シロカワ、マカジキ）

クロカワは各海区とも低率、ソロモン海区0—5°Sの北東部で僅かに0.31，ニユーカレドニア海区西部で0.14を示したに過ぎない。ニユーカレドニア海区のシロカワは好漁期前であつて、まだ当分低率が続く模様、同海区のマカジキも好漁期前で、釣獲率.13とまだ低いが、超大型で体長190cm以上であつた。

G．東部印度洋漁場

（濠 洲 西 方 海 区）

7月の調査船はこの漁場でも少く濠洲西方海区北部のココス島、クリスマス島近海の2隻にとどまつた。海流については、漁場圖を參照されたい。

（キ　ハ　ダ）

濠洲西方海区北部のキハダは、釣獲率1.03でやや好漁の程度、低減過程にあるようである。

（メバチ、ビンナガ、インドマグロ）

メバチは0.48を示し、この海区で昨年秋から続いた低率よりやや上昇、さらに増加が見込まれる。

ビンナガは極めて好漁で3.00，次第に低下するであろう。

インドマグは、不漁で全く漁獲されていない。

（クロカワ、シロカワ、マカジキ）

クロカワはこの海区としてはやや好漁、シロカワは低く、マカジキも低率である。

クロカワ、シロカワ、マカジキとも体長測定調査尾数は少数であつたが、クロカワは161—180cm程度のものが多いようで、シロカワは小型が多く、141—150cmにモードがみられた。

H．中西部印度洋漁場

（中部印度洋海区、西部印度洋海区）

中部印度洋海区では、マルテイヴ諸島南方の海区北西部で1隻、海区中部南よりで1隻、また、西部印度洋海区では、北部中央の1隻、合計3隻を調査した。漁場水温海流については漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

中部印度洋海区北西部赤道附近の1隻は、好漁後期と思われるが、2.64となお高率中部南よりでは1.02でやや低い。

西部印度洋海区北部の赤道附近では、5月から減少しつつあり、7月は2.97でこの海区としては低率である。

（メバチ、ビンナガ）

メバチは中部印度洋海区北西部では0.66，中部では0.10で低率であるが、西部印度洋海区北部においては、好漁期にあつて0.85を示している。

ビンナガは、中部印度洋海区の中部南寄り21—27°Sの海域で、はなはだしい高率6.17を示している。同海区北部では不漁、西部印度洋北部では春季以來減少の傾向にあつて、7月は0.63と6月より低下している。

（クロカワ、マカジキ）

中部印度洋海区のクロカワは、北部の赤道附近では0.28とあまり好漁ではない。中部南寄りではほとんど漁獲なく、西部印度洋海区北部でも0.23の低率であつた。

マカジキは、中部印度洋海区の中部南寄りで0.22の好漁が得られている。

I. 大　西　洋　漁　場

（ヴエルデ海区、ギアナ東北海区）

ヴエルデ海区においては、海区南部中央で3隻、ギアナ東北海区では、海区の南部中央で2隻、合計5隻を調査している。ギアナ東北海区南部の海流については、漁場圖を参照されたい。

（キ　ハ　ダ）

ヴエルデ海区南部7月のキハダは好漁、8.72を示して5，6月より増加している。ギアナ東北海区南部においても好漁が続き、釣獲率は5月よりさらに増加して、海区平均11.58となつた。赤道附近で操業した1隻は11.05，8—10°Nの1隻は12.45とやや高い。

（メ　バ　チ）

メバチは両海区とも低率、ヴエルデ海区においては、7—9°N，26—25°Wの1隻が0.72と最も高く、海区平均0.29，ギアナ東北海区では、8—10°Nの1隻が0.34の率で他の1隻より高く、海区平均は0.18と低い。

（ビ　ン　ナ　ガ）

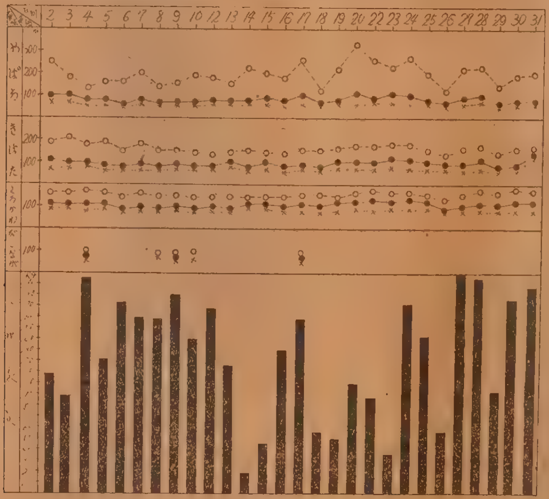
ヴエルデ海区のビンナガは、メバチと同じく7—9°N，26—25°Wで最も高く、0.72を示しているが、海区平均0.31の不漁、ギアナ東北海区では、8—10°N，50°W附近の海域で2.05とやや好漁であつた。

（クロカワおよびその他のカジキ類）

クロカワおよびその他のカジキ類は、ヴエルデ海区はいづれも漁獲皆無、ギアナ東北海区では、5—9°N, 53—38°Wの海域の操業船が、クロカワ0.11, マカジキ0.08を得たにとどまつた。

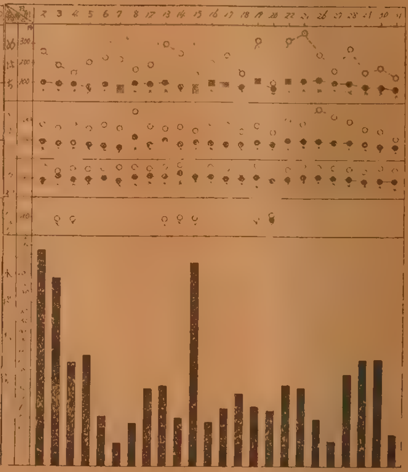
この資料は、南海区水研、神奈川県水試が依託調査船80隻より編集し、これを統計的に分離したものである。

鮪類水揚価格表（三崎）昭和三十四年三月



鮪類水揚価格表（三崎）
昭和三十四年四月

鮪類水揚価格表（三崎）
昭和三十四年五月



月別、漁場別、鮪類漁獲調査表

漁場	操業区域	調査隻数	体長測定船数	水温 (C°)	流向 流速	操業回数	漁具数	鈎数	ま[illegible] きはだ	 めばち
0—20N 140—120W	1—7N 134—117W	2	1	24.3 28.4	ENE 1.3, 1.5	26	10,530	49,660	954 1.92	1072 2.16
ガラパゴス	6—8S 120—116W	2	1	24.9 26.9		55	23,449	100,398	1505 1.50	3030 3.02
0—15S 140—120W	3—7S 134—127W	1	1	26.4 27.7		17	7,440	29,760	269 0.90	978 3.29
ハワイ南東 (5°N以北)	5—7N 160—140W	4	3	28.0 29.0		66	26,337	120,301	4157 3.46	1643 1.37
ハワイ南西 (5°N以北)	5—6N 174—164W	1	0	28.3 29.3		22	6,818	34,090	845 2.48	376 1.10
ハワイ南西 (5°N以南)	0—6N 180—159W	17	10	28.6 30.0		351	135,076	608,208	21987 3.62	6488 1.07
サモア	0—1S 177—173W	1	0	29.1 29.8		12	4,017	16,068	680 4.23	173 1.08
トンガ	26—27S 167—164W	1	0	19.0 21.5		16	5,649	28,245	39 0.14	12 0.04
南洋北部 (170°E以西)	14—15N 151—153E	1	0	27.5 29.9		10	2,500	10,250	64 0.62	39 0.38
南洋南部 (170°E以西)	2—5N 157—170E	4	4	27.0 29.8	E 0.5 0.8	80	28,334	129,054	4624 3.58	1052 0.82
南洋南部 (170°E以東)	2—5N 173E—180	1	1	28.7 29.6		27	10,180	40,420	1195 2.96	321 0.79
ソロモン	0—16S 157—178E	4	0	26.6 30.2		67	26,112	120,968	2487 2.06	438 0.36
ニュー カレドニア	19—26S 153—155E	1	0	21.6 23.9		12	4,513	18,052	639 3.54	64 0.35
ニュー ジーランド	33—35S 177—179E	1	0	16.9 18.9	ESE 0.8	17	5,400	27,000		22 0.08
濠洲西方	10—16S 94—111E	2	1	25.5 29.4		57	24,826	99,304	1024 1.03	480 0.48
中部印度洋	0—27S 70—80E	2	0	18.8 22.4		35	13,200	63,968	1078 1.69	211 0.33
西部印度洋	1—8S 43—67E	1	0	2.50 29.1	250, 300 0.7, 1.2	17	6,725	26,900	799 2.97	229 0.85
ヴェルデ	7—10N 26—21W	3	0	26.9 28.4		27	10,405	41,620	3631 8.72	119 0.29
ギアナ東北	5—10N 51—38W	2	0	27.9 28.7	E 2.0	38	14,776	67,481	7814 11.58	120 0.18
合計	19	51	22			885	366,287	1,631,750	53791 3.30	16867 1.03

（1958年7月 操 業 分）

（別 表 1 ）

[illegible]			か じ き					かつお	雑	さめ	計	備 考
びんなが	くろ鮪	いんど鮪	くろかわ	しろかわ	まかじき	めかじき	ばしよう					
			84	11	16	11	1	80	32	736	2997	
			0.17	0.02	0 03	0.02		0.16	0.06	1.48	6.04	
919			157	27	75	9	2	162	90	16	5992	
0.92			0.16	0.03	0.07	0.01		0.16	0.09	0.02	5.97	
395			61	12	13	1		354	75	76	2234	
1.33			0.20	0.04	0.04			1.19	0.25	0.26	7.51	
3	1		514	26	8	3			9		6364	
			0.43	0.02	0.01				0.01			
			339	6		4					1570	
			0.99	0.02		0.01						
163	1		2760	92	14	63	63	26	296	246	32199	
0.03			0.45	0.02		0.01	0.01		0.05	0.04	5.29	
			65	1	24	2	1		37	79	1062	
			0.40	0.01	0.15	0.01	0 01		0.23	0.49	6.61	
2154											2205	
7.63												
3			87			1	1	6	54	127	382	
0.03			0.85			0.01	0.01	0.06	0.53	1.24	3.73	
9	1		496	16	2	8	125	26	56	114	6529	
0.01			0.38	0.01		0.01	0.10	0.02	0.04	0.09	5.06	
1			204	1	1					4	1727	
			0.51							0.01		
4371			174	15	33	10	21	22	138	379	8088	
3.61			0.14	0.01	0.03	0.01	0.02	0.02	0.11	0.31	6.69	
476			26	3	23	18			22	34	1305	
2.64			0.14	0.02	0.13	0.10			0.12	0.19	7.23	
117		2920			23	6					3088	
0.43		10.81			0.09	0.02					11.44	
2979			205	137	91	29	19		106	37	5107	
3.00			0.21	0.14	0.09	0.03	0.02		0.11	0.04	5.14	
2391			76	35	104	35	5	25	88	18	4066	
3.74			0.12	0.05	0.16	0.05	0.01	0.04	0.14	0.03	6.36	
169			62	28	16	18					1321	
0.63			0.23	0.10	0.06	0.07						
129						6					3885	
0.31						0.01						
833			46		32		174				9019	
1.23			0.07		0.05		0.26					
15112	3	2920	5356	410	475	224	412	701	1003	1866	99140	
0.93		0.18	0.33	0.03	0.03	0.01	0.03					

月別、漁場別、鮪類体長組成表（1958年7月操業分）

（別表２）

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	50 cm 以下	51 —60	61 —70	71 —80	81 —90	91 —100	101 —110	111 —120	121 —130	131 —140	141 —150	151 —160	161 —170	171 cm 以上		計	漁獲尾数
きはだ	1	0—20N 140—120W	1—5N 129—117W	19									2 3.2	1 1.6	15 24.2	30 48.4	11 17.7	3 4.8		62 100	467
	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39								1 6.3	1 6.3	1 6.3	5 31.3	4 25.0	4 25.0			16 100	1063
	2	ハワイ南東 (5°N 以北)	5—7N／ 159—140W	36						1 0.8	3 2.4	2 1.6	3 2.4	27 21.8	35 28.2	35 28.2	16 12.9	2 1.6		124 100	2505
	9	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—6N 180—162W	217						6 0.5	299 23.3	308 24.0	286 22.3	223 17.4	120 9.4	39 3.0		1 0.1		1282 100	14582
	4	南洋南部 (170°E以西)	2—5N 157—170E	80						27 3.4	116 16.1	221 30.7	241 33.4	88 12.2	17 2.4	8 1.1	1 0.1	2 0.3		721 100	4624
	1	南洋南部 (170°E以東)	2—5N／ 173E—180							7 7.9	20 22.5	25 28.1	21 23.6	13 14.6	3 3.4					89 100	1195

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	60 cm 以下	61 —70	71 —80	81 —90	91 —100	101 —110	111 —120	121 —130	131 —140	141 —150	151 —160	161 —170	171 —180	181 cm 以上		計	漁獲尾数
めばち	1	0—20N 140—120W	1—5N 129—117W	19				1 0.6			1 0.6	2 1.1	11 6.2	31 17.4	39 21.9	38 21.3	33 18.5	22 12.4		178 100	482
	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39					1 1.4		2 2.9	4 5.8	5 7.2	5 7.2	18 26.1	10 14.5	15 21.7	9 13.0		69 100	2341
	1	0—15S 140—120W	3—7S 134—127W	17						2 4.2	1 2.1	3 6.2	16 33.3	8 18.7	9 18.7	7 14 6	1 2.1	1 2.1		48 100	978
	1	ハワイ南東 (5°N 以北)	5—7N／ 159—140W	19				1 1.0	1 1.0	14 13.3	24 22.9	18 17.1	22 21.0	12 11.4	8 7.6	3 2.9	2 1.9			105 100	503
	9	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—6N 180—162W	217				2 0.3	7 1.2	62 10.8	154 26.8	96 16.7	88 15.3	91 15.8	37 6.4	28 4.9	6 1.0	4 0.7		575 100	4453
	4	南洋南部 (170°E以西)	2—5N 157—170E	80					10 5.0	25 12.6	49 24.6	54 27.1	30 15.1	19 9.5	11 5.5	1 0.5				199 100	1052
	1	南洋南部 (170°E以東)	2—5N／ 173E—180	27						3 10.3	10 34.5	10 34.5	4 13.8		1 3.4		1 3.4			29 100	321

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
	1	濠洲西方	10—16S 94—104E	33					2 2.7	14 18.9	12 16.2	19 25.7	22 29.7	5 6.8						74 100	254

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
く	1	0—20N 140—120W	1—5N 129—117W	19						2 9.1	2 9.1	2 9.1	3 13.6	2 9.1	6 27.3	4 18.2				22 100	43
	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39							3 25.0		1 8.3		2 16.7	2 16.7	1 4.5	2 16.7	1 8.3	12 100	113
ろ	1	0—15S 140—120W	3—7S 134—127W	17			3 7.1	4 9.5	1 2.4	8 19.0	4 9.5	3 7.1	4 9.5	3 7.1	5 11.9	3 7.1	1 8.3	4 9.5		42 100	61
	2	ハワイ南東 (5°N 以北)	5—7N 160—140W	37	3 2.2	5 3.7	6 4.5	22 16.4	33 24.6	23 17.2	15 11.2	7 5.2	7 5.2	3 2.2	5 3.7	2 1.5			2 1.5	134 100	284
か	7	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—6N 180—162W	176	9 2.7	19 5.7	42 12.5	57 17.0	62 18.5	27 8.0	16 4.8	27 8.0	33 9.8	21 6.2	10 3.0	10 3.0	1 0.7	1 0.3	2 0.6	336 100	1582
	4	南洋南部 (170°E以西)	2—5N 157—170E	80	1 0.8	17 13.3	33 25.8	28 21.9	28 21.9	6 4.7	3 2.3	2 1.6	7 5.5		3 2.3					128 100	496
わ	1	南洋南部 (170°E以東)	2—5N 173E—180	27		1 2.9	7 20.0	9 25.7	4 11.4	4 11.4	2 5.7	2 5.7	5 14.3	1 2.9						35 100	204
	1	濠洲西方	10—16S 94—104E	33			1 6.3	1 6.3	7 43.8	7 43.8										16 100	130

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	130 cm 以下	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	211—220	221—230	231—240	241—250	251—260	261 cm 以上	計	漁獲尾数
し	1	0—20N 140—120W	1—5N 129—117W	19								1 16.7		1 16.7		1 16.7	1 16.7	1 16.7	1 16.7	6 100	8
	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39											1 100.0					1 100	20
ろ	3	ハワイ南東 (5°N 以北)	5—7N 160—140W	54	3 16.7	4 22.2			2 11.1	3 16.7	1 5.6	2 11.1	1 5.6		1 5.6				1 5.6	18 100	25
か	2	ハワイ南西 (5°N 以南)	2—6N 179—164W	64	1 20.0	1 20.0		1 20.0			1 20.0	1 20.0								5 100	19
	1	南洋南部 (170°E以西)	3—5N 160—170E	27			1 33.3	1 33.3								1 33.3				3 100	5
わ	1	濠洲西方	10—16S 94—104E	33	1 2.8	6 16.7	13 36.1	7 19.4	2 5.6	5 13.9	2 5.6									36 100	

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	100 cm 以下	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201—210	221—220	221—230	231 cm 以上	計	漁獲尾数
まかじき	1	0—20N 140—120W	1—5N 129—117W	19						4 19.0	4 19.0	3 14.3	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5	2 9.5			21 100	21
	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39								3 42.9	2 28.6	2 28.6						7 100	55
	2	ハワイ南東 (5°N以北)	5—7N 160—140W	37	1 33.3								2 66.7							3 100	5
	1	濠洲西方	10—16S 94—104E	33					6 42.9	5 35.7	3 21.4									14 100	45

魚種	測定船数	漁場	操業位置	操業回数	80 cm 以下	81—90	91—100	101—110	111—120	121—130	131—140	141—150	151—160	161—170	171—180	181—190	191—200	201 cm 以上		計	漁獲尾数
めかじき	1	ガラパゴス	6—8S 119—116W	39						1 100.0										1 100	6
	3	ハワイ南西 (5°N以南)	2—6N 179—164W	88			2 6.9		1 3.4	3 10.3	6 20.7	8 27.6	3 10.3	5 6.9	1 3.4	1 3.4		2 6.9		29 100	30
	1	南洋南部 (170°E以西)	3—5N 160—170E	27						3 42.9	2 28.6	2 28.6								7 100	7

マ グ ロ 漁 況 概 況 豫 報　（昭和34年7月）

神奈川県水試　遠洋資源係

1. 太平洋西経北部漁場

6月までみられなかつたマカジキが、ミッドウエーよりハワイ諸島周辺にかけての列島付近から出現しはじめ、釣獲率は0.4程度になります。

2. 太平洋西経中部漁場

パルミラ以東のキハダは、好漁を呈する西経南部漁場の延長漁場で、釣獲率は、西経160 から140°までの海域が3.0, 西経140°から110°までの海域が2.0になます。

クロカワは、マーシャル東側から西経140°にかけての海域が好漁期に入りますが、釣獲率は経度により異なり、マーシャル東側は年々僅かづづ低下していますので今年は0.5, 180°からパルミラにかけての海域は最盛期に入り0.7, パルミラから西経140°にかけての海域は好漁初期で、0.4程度です。

3. 太平洋西経南部漁場

北緯5°から南緯5°までの、ギルバート周辺からマーケサス北方にかけての海域におけるキハダは、かなりの好漁となります。釣獲率は、昭和28年から32年にかけて年年低下していましたが、32年以後、再び上昇しはじめましたので、今年は、昨年と、同率か、或は昨年より稍高率で、ギルバート南方が3.0, フエニックス周辺が4.0, 他海域は3.5になります。

メバチは、西経140°から110°にかけての海域の、赤道から北緯2°までの水帯と、南緯3°から5°までの水帯において稍好漁となり、釣獲率は2.5程度になります。

キハダと分布海域を異にし、南緯4°以南に分布するビンナガは、南北2つの群があり、北の群は、西経160°以西の以南4°から10°の海域において好漁となり、南の群はこの漁場の東端から西端にかけての南緯20°から30°までの海域と、マーケサス南西からタヒチ周辺に至る海域において好漁となります。釣獲率は、北部漁場が3.0, 南部漁場は8.0となりますが、北部漁場では、釣獲率2.0程度のキハダが混ざります。

4. 太平洋東経北部漁場

北緯30°から40°までの東経150°から180°にかけての海域のメバチは、昭和33年は夏

に好漁となりましたが、32年以前は秋に好漁となつていましたので、注意する必要があります。

3月から6月にかけて、北緯23°付近から北緯30°付近へと、じょじょに北上して来たマカジキは、その後更に北上し、好漁海域は、伊豆諸島東方海域のみとなります。なお、伊豆諸島東方海域も低下途上になると考えられますので、釣獲率は0.8程度です

北緯24°付近に東西に連なる亜熱帯収斂線の直ぐ南側を、収斂線に沿つて東西に擴がつて分布しているクロカワは、7月が最盛期で、釣獲率は0.5まで上昇します。

5. 太平洋東経中部漁場

この漁場と、東経南部漁場の北部においては、東経170°以西と以東とで漁況が異なり、7月は、東経170°以東の、北緯5°から12°までの海域において、クロカワが稍好漁で釣獲率0.5, になります。南支那海のキハダは、6月にひきつづき好漁で、釣獲率は4.0に達します。

6. 太平洋東経南部漁場

東経170°以東における、北緯5°から南緯5°の間のキハダが好漁で、釣獲率は、ギルバート周辺が3.5, ギルバート南方が3.0になります。

ビンナガは、西経南部漁場と同様で、南北2つの魚群があり、北部魚群は、ソロモン群島を含む南緯4°から10°までの水帯において好漁で、釣獲率は3.0, 南部魚群は、さんご海南部からオーストラリア沿海を除く、南緯15°から30°にかけての海域において好漁で、釣獲率は4.0になります。

7. 東部印度洋漁場

大、小、両スンダ列島のごく沿海では、キハダが好漁で、釣獲率は3.0になります。

メバチは、東経90°から115°にかけての、南緯6°から10°までの水帯が好漁で、釣獲率は西方が2.5, 東方が2.0になります。

クロカワは、東経90°から105°までの、北緯6°から南緯10°にかけての海域が好漁で釣獲率は、赤道以南が0.5, 赤道以北が0.7になります。

ビンナガは、南緯10°以南の海域全般にわたつて好漁で、釣獲率は、ココス周辺が5.0, ジャワ南方が3.0, オーストラリアのスチーヴ岬沖が4.0になります。
なお、ココス南方では、7月頃より1月頃の方が好漁になりますが、釣獲率は、7月でも2.5程度にはなります。

8. 中、西部印度洋漁場

南緯10°以南のビンナガは好漁で、釣獲率は、南緯10°近くの北部で5.0, 南緯25°付

近では6.0になります。

赤道以北のベンガル湾とアラビア海では、クロカワが好漁で、釣獲率は、アラビア海が0.7, ベルガル湾が0.5になります。なお、アラビア海の北緯5° 以北の海域の夏の漁況は、未だ明らかにされていませんが、5°N 以南の海域よりは好漁となります。

9. 大西洋赤道付近漁場

大西洋の赤道付近のキハダは、西経30°以東の海域と、西経30°以西の海域とで漁況が異なり、7月は、以西の海域では漁場が擴がるため、ナタール沖からギアナ北方にかけての海域全般にわたり好漁、以東の海域では漁場が北側に移動するため、赤道以北の海域が好漁となります。釣獲率は、北緯5°以南が7.0から10.0, 以北は10.0を越します。

ビンナガは2つの魚群があり、北部魚群は、北緯5°, 西経30°の付近の洋心部に分布し、釣獲率は2.0, 南部魚群は、西経27°以西の南緯3°以南、及び西経27°以東の南緯10°以南の海域に分布していますが、釣獲率は、低下途上なので2.0程度になるでしょう。

鮪類標識放流について

◇ 昭和34年5月1日から5月31日までの間に放流実施の報告があった船数は1隻（6尾）である。

放流実施船名及び実施の概要

船名	標識番号	放流年月日	放流位置	魚種（尾数）
大勢丸	×0141 ×0142	34年3月21日 〃 3月25日	4°～ 7°N 70°～71°E	きはだ (1) めばち (1)
大勢丸	×0144～146 ×0152	34年3月 5日～ 〃 4月 2日	3°～ 6°N 61°～70°E	めばち (3) きはだ (1)

アルキペラゴ諸島付近のクロカワについて

榎　田　昭　一

南太平洋中部アルキペラゴ諸島付近の海域は昭和31年末期頃からクロカワの漁場として注目されている．筆者は幸い10月～1月に亘って3回この海域での試験操業に従事し，クロカワの好漁場としてまた産卵生態上二，三の知見を得たので参考までにお知らせする．

なお，詳しくは和歌山県水産試験場鮪漁業試験報告をみられたらよい。

1.　魚種組成，漁期

中込（1958）[1]は西部太平洋の資料からクロカジキが赤道海域を越えて南北方向の洄游を行うこと，さらに赤道を越えて北半球から南半球に南下する時期に釣獲率が高くなると述べている．この海域については資料が少いので西部太平洋のクロカワと同じ傾向の洄游が行われているかどうか明でないが，鮪漁業研究会等[2]の調査資料および筆者の試験結果からみて漁期は毎年11月～2月の間で，12月或いは1月に釣獲率のピークがあるように推察される．また見掛け上，この海域のクロカワも，赤道を越える南北洄游を行うことが考えられるが，群の北上する経程に疑問がある．筆者が試験操業に従事した期間は10月～2月で所謂この海域での漁期に相当する．表1からクロカワは20%以上と占めて尾数の上ではビンナガの40%に及ばないが，体重の面からみると総漁獲量の約半数を占めていて，すこぶる好漁場であることがわかる．しかし，実際の操業結果からみると，魚群は海域全般にほぼ均等に分布しているらしく，1回当漁獲量はキハダ・ビンナガを含み5トン程度の漁で，特に大漁，凶漁はない．

図1　クロカジキの体長

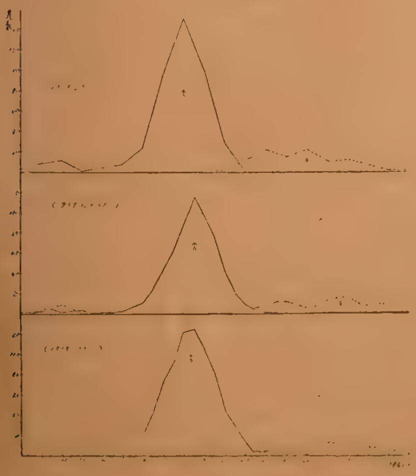


表1　アルキペラゴ諸島付近の釣獲魚種組成
（和歌山県那智丸）

魚種＼月	10・11			12・1			2		
	尾数	※百分率	釣獲率	尾数	百分率	釣獲率	尾数	百分率	釣獲率
キハダ	421	10.6	0.61	677	18.1	1.18	251	12.0	0.69
メバチ	305	7.7	0.44	78	2.7	0.14	442	4.5	0.26
ビンナガ	1,698	43.1	2.46	1,533	40.5	2.85	894	42.8	2.49
メカジキ	7	0.2	0.01	14	0.4	0.02	7	0.3	0.02
マカジキ	69	1.7	0.10	251	6.7	0.44	14	0.7	0.04
クロカワ	942	23.9	1.36	791	21.2	1.37	585	28.0	1.62
シロカワ	6	0.2	0.01	9	0.2	0.01	10	0.5	0.03

※百分率：上表に記載した魚種以外のものも計算に入れている．

2.　体長，性比

体長組成は♂は正規型の分布を示し，♀は傾向的に2個の山に分れている．さらに，他の海域でみられない[3]体長130cm以下の若年魚がみられる．これらの体長の中で，主な漁獲対象となるものは，♂の中型魚（170～200cm）であり，釣獲率の高い時ほど中型魚へのまとまりが良く，釣獲率の低い時は，大型魚（♂）が相対的に増加するようである．

表2　クロカワの性比

性＼月	10.11	12.1	2
♂	766	618	432
♀	106	164	107
♀/♂＋♀×10^2	12.2	20.9	20.4

3. 生 殖 腺

10月～2月までの間に実査したところでは雌雄とも中・成熟 (Ripe) 完熟・放卵寸前 (Runing ripe) および放卵後 (speut) のいづれかに属していて，卵巣精巣とも伸長肥大している．雌では卵巣の長さ 45cm～85cm に達し，その重量は 3,000gr～11,000gr に及び，体長階級によって熟度・重量を異にしている．つまり，240∠∠ のものは中熟の状態より稍々発達の進んだものが多く，240⊥∠ のものでは初・中熟のものが多い．すなわち雌の体長は傾向的に二つの山に分れることが図1により示されているが，これらの夫々の山は卵巣の発達程度の異なる2群によって夫々占められていることがわかる．

表3　　クロカワの卵巣

卵巣重量gr / 長さ cm / 体長	～3,000 gr / 45 cm	4,000 / 50	5,000 / 55	6,000 / 60	7,000 / 65	8,000 / 70	9,000 / 75	10,000 / 80	11,000 / 85	熟度 未熟	初熟	中熟	成熟	放卵後
～240cm	1	4	7	4	6	3	3	1	2	4	12	8	4	2
241～		3	2	6	8	10	6	2	7		7	10	10	18

一方，精巣も他の海域のものよりは，はるかに肥大しており，12月～1月の間に調査した殆んどの個体が sperm を出していた．精巣重量 600gr 以上のものでは，その長さは 50cm 以上に達し，精巣表皮は薄く，乳白色又は薄朱色を呈していて全部 spermatic であった．

このように雌雄とも生殖腺は熟しているところから，この海域のクロカジキ群は明かに産卵群であると思われる．これら釣獲された雌雄の日別の生殖腺の状態を観察すると，釣獲率の高い時はともに中・成熟群に一様にまとまっているが，釣獲率の低いときには，相対的に speut (放卵後) の雌および未熟の雌の出現が目立っている．このようにみてくると，生殖腺熟度の異同が，クロカワの群の形成に強く影響しているように考えられる．

表4　　クロカワの精巣

精巣重量gr / 体長cm	～200	300	400	500	600	700	800	900	1,000	1,200	1,400	1,600	1,800	2,000	2,000～
～170	1	1		2											
180				1	1	3			1	1					
190			1	1	2	3	2	2	2	1	2		1		
200						1	2	1		2	1		1		2
210									1		2		1		

4. カジキ科魚類の幼魚生棲場としてのアルキペラゴ諸島付近

この海域には他の海域にみられないクロカワの若年魚 (100～130cm) が多数釣獲されており，その中には雌も含まれていること．更に胃の内容物としてメカジキと思われる体長 26.8cm の幼魚も採集していること等から，この付近は，これらの幼魚，若年魚の生棲地として可成り適していることが考えられるが，併行的に行った海洋調査の結果その他から幼魚生棲場としての適当な点を示せば次のとおりである．

1) 海流は一般に東流しているが 0.6kt 程度のゆるい流れであり，更に島礁付近では Stationaly および渦流のところが多いこと．(海の生産力が大なること)

2) カジキ類の胃内容物としてシマガツオ，カワハギ，フグ，ミヅウオ，アジ科等の餌料魚類が多数出現していること．

3) クロカワが釣獲魚種組成上で圧倒的な割合を占め，生物相互間の力の結抗でも優位にあるだろうこと．

なお，クロカワ以外のカジキ科 (シロカワを除く) の魚種でもいずれも卵巣肥大しており，完熟の状態・放卵中の状態にある個体が多数認められることは極めて興味ある問題であり，いづれ機会をみてこれらの魚種についてもお知らせしたい．

文　献

1) 中込淳：日本水産学会誌 23 (9) (1958)
2) 鮪漁業研究会：鮪漁業 48号～51号
3) 中村広司他2名：南海区水研業績集 1 (1953)

マグロ研究報告の紹介
No. 2

キハダの研究 I
体長組成の季節変化（西カロリン諸島沿海）

藪田洋一，行縄茂理
南海区水産研究所報告 5，1957

海流系別に体長組成の季節変化を検討した結果

1） 体長組成の季節変化には，成長によるものと，魚群の移動によるものとの二つの場合が考えられる．

2） 3〜4月を転機として，100cm以下の小型群がこれらの海域に添加され，9〜10月を転機として，130cm群の消失という現象が明瞭に認められる．

しかし，これらの現象は赤道反流以北では明瞭に，南赤道流々域では不明瞭である．このことは，北赤道流，赤道反流々域がキハダの生活環境として似通った意味を持ち，南赤道流々域とは全く異なったものであるためと思われる．

（会員　中　込）

キハダの研究 II
東カロリン諸島沿海における体長組成

藪田洋一，行縄茂理
南海区水産研究所報告 7，1958

1） 150°〜170°E，4°S〜12°N間の海域における海流系別体長組成の季節変化を検討した．

2） 体長組成は海流系，季節によって異なるが，前者による相異は著しくなく，150°E以西と比較して不明瞭である．

3） この海域では周年大型群の割合が多い．

4） 3月から4月に若年群が増加するが，大型群は12月に入って減少する．

5） 西カロリン諸島沿海に分布する4〜9月の間の主群は9月以降に東または南に移動することが考えられる．

6） 南赤道流々域では北辺部（2°N〜2°S）と南辺部（2°〜4°S）に分布する体長組成は異なり，南辺部では周年若年群の割合が多い．

（会員　中　込）

製　氷・冷　蔵・凍結装置
製　作・設　計・工事請負

株式会社　中　須　製　作　所

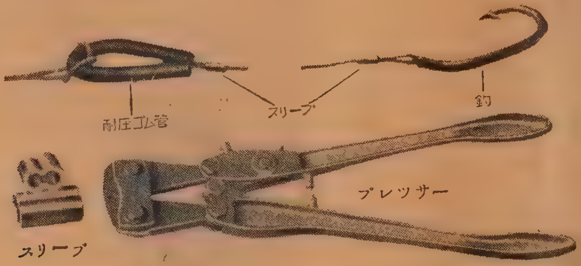
本　社　東京都丸ノ内三菱仲14号館3号
電　話（28）8730〜5番
工　場　大田区原町177番地
電　話（73）3295・3922・3923番

——新 漁 具 紹 介——

鮪延縄用ＳＫスリーブ及びプレッサー

鮪 漁 業 研 究 会

ＳＫスリーブ及びＳＫプレッサーは鮪延縄用釣元ワイヤーのサツマの代りにワイヤーを締着させるため特殊金属製のＳＫスリーブ（長さ10㎜ 外径6㎜）を用いＳＫプレッサーにより完全に締付けることにより手で捲くサツマと同等以上の一定した強度を保有させることが出来るよう考案されたものであり，その特徴として次の二点が考えられる．



1. 作業はいちいち手で捲く技術と時間は必要でなく釣元ワイヤーをＳＫスリーブの穴に通しＳＫプレッサーにより締付けるだけの簡単なものであるため製作に時間を要しない．
2. 破断力は手で捲いた場合には150～210kgと人により上手下手があり強度は一定していないがＳＫスリーブとＳＫプレッサーを使用して締付けた場合は195～205kg（神奈川県水産試験場調）と人による差がなく強度もほぼ一定している．

上記特徴である作業が簡単で時間がかからず強度も安定しているので一般鮪船は勿論であるが，特に外地基地操業，船団操業参加船等で使用すれば非常に有利と考えられ又作業にあたっては２人又は３人が１グループとなって流れ作業式に作業するのも一方法と考えられる．

現在海鷹丸，岩手丸，鳥海丸，茨城丸，第１第２防長丸，静浦丸及び報国水産ＫＫ所属船の各船により使用されており，すでに海鷹丸，岩手丸，鳥海丸は帰港し各船共その成績の優秀なることを報告している．

鮪延縄漁具製作に革命をもたらす新漁具

鮪延縄用SKスリーブ及びプレッサー

実用新案登録番号　132570・132571

本品は手軽に締めつけが出来て誰でも出来不出来がありません．その上製作に時間と労力を要せず強度も一定で革命的のものであります．東京水産大学練習船海鷹丸では夙に使用されていて実用上その耐久力強度については充分に立証されております．

須　田　製　作　所

営 業 所　東京都中央区銀座東6—4 日交ビル　電話(54)3904～7
第１工場　東京都中央区月島通11—6　電話(64)1095
特約販売店　三浦市三崎港　日本民衆産業ＫＫ三崎出張所　電話(三浦)2205．3503
※ 説 明 資 料 は 鮪 漁 業 研 究 会 に 申 込 下 さ い ※

業 界 メ モ

1959年5月～6月

5月9日　第2ながさき丸大西洋へ

長崎南方漁業KK第2ながさき丸（349トン）は16日三崎を出港大西洋に向う，同船は大洋漁業に経営を委託ポート・オブ・スペインに対米2航海，対ユーゴ直輸出のためリジエカに3航海分水揚し来秋帰国の予定．　（三崎港報）

5月13日　第15黒潮丸大西洋へ

日督漁業KKの第15黒潮丸（408トン）は18日大西洋に向って久里浜を出港大西洋マグロのイタリヤ直輸出にあたる．　（三崎港報）

5月19日　夏ビンの初漁

静岡県指導船富士丸（200トン）は野島沖でビン長漁を続けているが，このほど35トンの漁獲をあげた．操業位置 E145° N31°7′，10トン以上の水揚をみたのは今期夏ビンでは初めてである．

（水産経済）

5月19日　第3天洋丸野島丸南太平洋へ

大洋漁業マグロ母船第3天洋丸（3,600トン）は18日東京港から南太平洋の漁場へ向け出港した．同船の目標高は冷凍マグロ5,700トンで25日頃からフイジー島沖合方面で操業開始する．又日水，報国マグロ母船野島丸（9,100トン）は15日神戸港よりフイジー島近海漁場に向け出港した．両船共9月末帰港の予定である．　（水産経済）

5月21日　リベリア（アフリカ）に基地建設

大西洋マグロ漁場の開発に伴って日本の遠洋漁船は大西洋マグロをアメリカ，ヨーロッパ両大陸へ輸出しているが，大洋漁業KKではこのほどアフリカ大陸西海岸のリベリア国にマグロ漁業基地設置の計画をすすめている．候補地はモンロンビア，シーラの2港である．　（三崎港報）

5月27日　サモアの魚価好調

サモア基地漁業はその後も好調を続けているが，三菱，日冷両者とヴァンキャンプ社との間でこのほど6月1日からビン長の魚価をトン当り275ドル（貫当り408円）に値上げすることに決定した．

（三崎港報）

5月27日　漁業者協会十周年式典

神奈川県鰹鮪漁業者協会は27日三浦商工会議所に政界業界の名士多数を迎えて創立10周年記念の式典を挙行し功労者の表彰協会10年史の発表があった．

（三崎港報）

5月28日　大西洋冷凍マグロユーゴへ再輸出

丸紅飯田KKでは6月早々再びユーゴへ210トンの冷凍マグロを輸出する予定．同国へさる4月日冷が初輸出に成功続いて伊藤忠，大洋，丸紅などが計約1,300トンを輸出している．価格は285ドルで前回より3～4ドル安．使用船は宝幸水産所属船31宝幸丸である．また同社は8月上旬頃ギリシャへも140トンを同船で積出す予定．丸紅飯田では大西洋からの洋上輸出を強化，ヨーロッパ市場開拓に重点を置く意向を示している．　（水産経済）

6月1日　水場優秀船きまる

三浦市では昭和33年度水揚優秀漁業者及び漁獲物搬入優秀船についてこのほど次の通り決定した．

（カッコ内は水揚金額単位円）

漁業者　①日督三崎事業所（211,447,783）
　　　　②宝幸水産三崎事業所（167,895,659）
　　　　③丸高水産（133,786,342）

漁船

350トン以上	①第15丸高丸（86,187,343）
	②銚晴丸（66,378,939）
	③那智丸（63,183,420）
200—350トン	①第10光洋丸（58,247,356）
	②第18光洋丸（56,563,025）
	③第11金比羅丸（55,750,973）
200トン未満	①第11八興丸（48,552,031）
	②第2千鳥丸（38,490,233）
	③第6住吉丸（36,748,654）

（三崎港報）

6月11日　第22黒潮丸大西洋へ

日督漁業所属マグロ船第22黒潮丸485トンは13日久里浜港を出港し大西洋に向い対米向マグロ仲継輸出のための長期操業に従事する．　（三崎港報）

6月17日　コロンボに冷蔵庫建設

日セ漁業合弁のセイロン・オーシャン・フッド会社ではコロンボに冷蔵庫の新設計画を進めており近く社長が来日，日本側と打合せる．この冷蔵庫はコロンボ市内に建設され製氷20トン，凍結10トン，冷蔵1,000トン，東南アとしては大規模なものである．

（三崎港報）

6月18日　第3天洋丸船団好調

大洋漁業第3天洋丸船団（キャッチャー35隻）はこのほど同社への連絡によると目標額5,620トンに対して約490トン（9％）の漁獲を挙げている．

（三崎港報）

本会の図書誌の分譲其の他について

◎本会発行の図書誌を分譲致しておりますから御申込下さい。

会　　誌「鮪　漁　業」第6—59号（第1—5号品切）　各150円　郵送料　16円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 27 年 5 月　至昭和 28 年 4 月）
1 部　300円　（B 5 判 150 頁）　郵送料　24円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 28 年 5 月　至昭和 29 年 3 月）
1 部　400円　（B 5 判 226 頁）　郵送料　40円
鮪類水揚地調査報告（自昭和 29 年 4 月　至昭和 30 年 3 月）
1 部　300円　（送料を含む）（B 5 判 126 頁）
鮪類水揚地調査報告（自昭和 30 年 4 月　至昭和 31 年 3 月）
1 部　400円　（送料を含む）（B 5 判 135 頁）
鮪 漁 船 操 業 図（航走距離早見表、鮪類年令対体長体重表刷込）
1 枚　50円　郵送料　8円
鮪　漁　場　図（海区別に表示したもの）
10 枚　100円　郵送料　16円

◎会員各位の鮪漁業に関する調査や研究或は体験、漁具漁法の改良、遭難防止等についての投稿其の他写真を御願い致します。
◎本会に入会を希望される方は住所、氏名、職業、会誌の送り先を記入の上年間会費 1,500 円（他に会誌送料 200 円）を添えて研究会宛御申込下さい。
◎本誌に広告掲載希望の方は本会伊藤専務理事迄御申込下さい。

—— お　願　い ——

◎昭和32年分33年分会費（一ヵ年分 1,700 円）未納の方は本会宛至急払込送金方（振替貯金口座横浜1472）お願い致します。　尚整理の都合もあり会費切れの向には一時会誌の送本を中止致しますからお含み願いあげます。

1956年4月～57年3月に於ける鮪漁場の漁況と海況（旧名鮪類水揚地調査報告改題）が近日中発刊されます。限定出版でありますが御希望の向は至急御申込下さい。
定価 1 部　500円（送料共）

鮪　漁　業
1959年 6 月号

昭和 34 年 6 月 10 日 印 刷
昭和 34 年 6 月 10 日 発 行
監　修　神奈川県水産試験場調査部
編集兼発行人　菅　野　進
神奈川県三浦市　神奈川県水産試験場内
発 行 所　鮪 漁 業 研 究 会
（振替貯金口座 横浜 1 4 7 2）

鋼木船造修一般

500噸 船 台 三 基

起重機 10噸・5噸各一基

三崎船舶工業株式会社

本社 東京都中央区西八丁堀2の10
電話築地(55) 9661〜6
工場 神奈川県三浦市三崎町向ケ崎2446
電話(三浦) 2880・2934・2343

太洋無線が世界に誇る

船舶用 航空機用 陸上用 各種

自動方向探知機

太洋無線株式会社

東京都渋谷区楽楽町48番地
電話渋谷(46)代表5283—9番

比重調整 樹脂加工 クレモナまぐろロープ

特徴
① まぐろの喰い良い
② 毎航海のタール染不要
③ 他の追随を許さない耐久力と耐摩耗力

営業種目……クレモナ、綿延縄及び仕立、漁具一式、救命筏

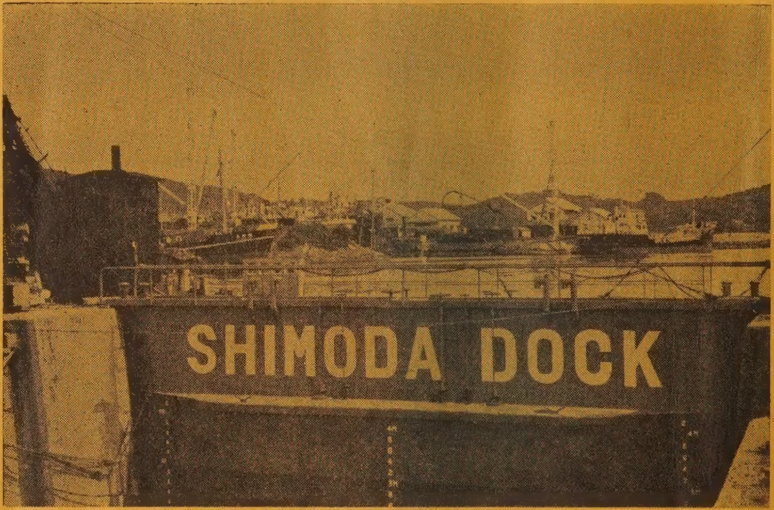
アサヒテックスロープ株式会社

本 社 東京都三鷹市下連雀四〇〇番地 電話 武蔵野 3978・7923番
出張所 神奈川県三浦市三崎町花暮一四四番地 電話 三浦 2957番

800屯ドライドック完成

船渠	大きさ	長さ	幅	深さ	
		59.15 米	14.0 米	6.6 米	
	入渠可能船舶	長さ(垂線間)	幅(型)	吃水(平均汐高線1.7米に於て)	総屯数
		57.0 米	11.0 米	4.41 米	800 屯

船台兼船架	建造又は上架可能船舶	構造	長さ	総屯数	数量
		4条軌条算盤式	50 米	500 屯	2
		2条軌条式	50 米	250 屯	2



下田船渠株式会社

静岡県下田港　本社事務所 電話下田 1001(代表)～3番　本社現場事務所 電話下田1005(代表)～6番
武ヶ浜工場 電話下田 1008(代表)～9番
東京事務所　東京都中央区銀座東4－4畜産会館1階　電話東京(54)9270(直通),4121(代表)－2

紫綬褒章に輝やく
泉井式ラインホーラー

株式會社　泉井鉄工所
高知県室戸町

鮎漁業 第五十九号 昭和三十四年六月十日発行 (毎月一回十日発行)
昭和三十一年二月二十三日 第三種郵便物認可